

お元気ですか

「最後の砦」ECMOについて

市立長浜病院

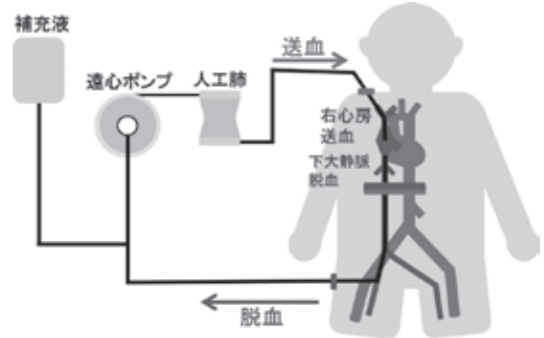
臨床工学技術科 草野 信悟

新型コロナウイルスの存在が確認されてから早2年が経ち、私たちの不安をよそに変異株が蔓延し、重症患者数が増え続けました。その中で注目されたのが体外式膜型人工肺、通称ECMO。これは重症患者の肺機能を代行する装置です。

重症患者は、時に重度の肺炎による呼吸不全が起るため、人工呼吸器で強制的に高濃度酸素を送って呼吸を助けます。さらに肺炎が悪化すると肺胞が著しく損傷し、人工呼吸器により肺を痛めてしまうような強い設定で機器を使用しないと体内の酸素が保てなくなり、この状態が続くと肺は元に戻らないくらい損傷を受けます。この場合、体外で肺機能の代替をして体内に酸素を取り込み、肺を一時的に休ませるECMOが必要となります。

このコーナーでは、病院施設や事業のほか、生活に役立つ“健康豆知識”などを紹介します。

ECMOは、血液を体外に出す特殊な治療(体外循環)で、肺の機能を温存できるという画期的な手段がとれる装置です。その反面、感染症や血栓症、腎不全など様々な合併症が起こりやすいとされます。人工肺や回路内で血液を固まりにくくするため抗凝固薬を使用するので、各臓器で出血のリスクも高まります。また、ECMO使用中にトランプルがあると、血液循環が滞



り、死に繋がる危険性があります。このため24時間態勢での監視が必要となり、ECMOの知識に長けた医師、看護師、臨床工学技士など10人以上がチームで対応します。治療期間は数週間以上に及びこともあります。

我々、臨床工学技士は生命維持管理装置を扱うプロ集団です。しかし、ECMO管理となるとさらに高度な能力が要求されます。現在、全国に約1,400台当院は2台のECMO装置が配置されていますが、ECMOを管理できる医療従事者の数は少ないといわれています。

今後さらに湖北地域で高度医療の提供が実現できるように精進してまいります。

問 市立長浜病院
☎68・2300(代表)

市長コラム

至誠通天

藤井 勇治



※至誠通天 誠を尽くせば天が味方してくれること

「災害に備えて防災力アップ!」 厳しい寒さも和らぎ、少しずつ過ぎやすい季節となつてまいりました。振り返りますと、今冬は寒波の影響で例年になく大雪に見舞われ、公共交通機関や物流に影響が出るなど災害レベルの積雪となりました。最近のトンガ噴火による津波や、地震、豪雨、洪水など、災害はいつ、どこで発生するかわかりません。これまでに以上災害への備えに万全を期さねばならないと痛感しています。

そこで、長浜市では今回新たに、新潟県妙高市と「大規模災害時における相互応援に関する協定」を締結いたしました。

新潟県妙高市は、北陸の日本海側に位置し、日本百名山の妙高山をはじめ、豊かな山々が織りなす雄大な自然景観と湧量豊富な温泉やスキー場が人気の観光地で、長浜市生まれの戦国武将「石田三成公」を縁に、長きにわたって市民間の親交があります。

長浜市は、これまでに彦根市を

じめ、岐阜県大垣市、愛知県大府市など全国11市町と協定を結んでまいりましたが、今回、協定締結の少ない北陸方面の自治体で、同じ災害事象で同時被災することなく、かつ日帰りで支援が可能な距離に位置することから締結に至りました。

この協定により、万が一の有事の際には、お互いが迅速かつ適切な対応を取り合うことで、早期の復旧・復興へと繋げることができ、大変心強く感じています。

私は常日頃から「災害は必ず起こる」ということを肝に銘じて防災に取り組むことが重要だと申しあげています。今後も、市民の命と安全を守るため、日頃の防災訓練の実施や防災意識の普及啓発、備蓄品・防災資機材の確保など市の防災対策を徹底してまいります。



▲リモートによる締結式

●広報ながはまに関するご意見 (今後、特集を希望するテーマ)

年齢 歳 (男性 ・ 女性)

※担当課からの返事をご希望の場合は、氏名・ご住所・連絡先(電話・メールなど)をご記入ください。

●市政に関するご意見

ながはまの文化財

市内には、国や県、市が指定した文化財がキラ星のごとく光り輝いています。このコーナーでは、数ある文化財の中から代表的なものをシリーズで紹介いたします。

長浜市指定文化財
「絹本着色 弘法大師像(醍醐寺)」1幅
指定日：昭和 49 年 7 月 1 日
所在地：醍醐町

弘法大師の名でも知られる真言宗の開祖である空海(774年ー835年)を描いた作品です。

右手に密教の法具である金剛杵、左手に数珠を持つ姿が描かれています。本作が伝わった醍醐寺(醍醐町)は真言宗の寺院で、寺院における称号(山号)を守護山といっています。寺伝によると、7~8世紀に活躍した修験道の祖、役小角(やくせきかく)によって開かれ、醍醐寺に属するお寺は、かつて49もあったと伝わります。

現在も醍醐寺には、鎌倉時代に遡る貴重な文化財が多数残されており、壮大な寺院であったことが想像されま

す。貴重な宝物の一つである本作は、的確で巧みな描写から鎌倉時代後期の14世紀頃の制作と推定されます。

空海は現在の香川県、讃岐国に生まれ、延暦23年(804)に日本の天台宗を開いた最澄らとともに、中国・唐に渡ります。帰国後は、中国で教えを受けた密教を日本に伝え、天皇から高野山金剛峯寺(和歌山県)や東寺の名で知られる教王護国寺(京都府)を賜り、真言宗を開きました。

日本で真言宗を開いた空海は、多くの人々の篤い信仰を集め、本作のように数多くの肖像画が制作されました。

鎌倉時代に遡る「弘法大師像」は市内にほとんどなく、本作は大変貴重な作例といえます。



▲弘法大師像

問 長浜城歴史博物館(☎63・4611)